

学校法人中部大学創立70周年記念
チャリティーコンサート

第五回
中部大学
音楽祭

Chubu University
Charity Concert
2008

12/13(土)

開場/14:15 開演/15:00

愛知県芸術劇場
コンサートホール

主催:中部大学

【後援】

春日井市、春日井市教育委員会、(財)かすがい市民文化財団、

NHK名古屋放送局、NHK厚生文化事業団、

中日新聞社、中日新聞社会事業団、

中部大学同窓会、中部大学後援会、中部大学幸友会

【協賛】

(有)中部大学サービス

Message

ごあいさつ

学校法人中部大学理事長
大西良三

本日は、ようこそ、第5回中部大学音楽祭「チャリティーコンサート」へおいでくださいました。心からお礼申し上げます。

この中部大学音楽祭は、みなさまのご協力とご支援で、この広い愛知県芸術劇場コンサート・ホールが満席になるほどの大きな成功を納めてまいりました。これも、若い学生たちの真摯で情熱的な演奏へのご理解があつてのことと存じます。また、ご参加下さいます「春日井市民第九演奏会」のみなさまのご協力のおかげでもあります。ここから感謝いたします。

中部大学音楽祭の掉尾を飾るのは、会場とステージが一体になって歌うベートーヴェンの「第九交響曲」の「歓喜の歌」です。そこには、圧倒的な迫力ですべての人の胸に迫るなにかがあります。多くのみなさまと共有したこの感動を大切にしながら、来年もまた、良い年でありますようにと願うものです。

では、第5回中部大学音楽祭をごゆっくりお楽しみ下さい。

謝辞

中部大学音楽祭実行委員長
三浦昌夫
(中部大学学監)

中部大学音楽祭は、少しでも、多くのみなさまのお役に立つように「チャリティーコンサート」にいたしました。すでに、たくさんのチケット代がここに集まってきました。ご協力下さいましたみなさまに心から感謝申し上げます。

第5回のこの「中部大学音楽祭」もまた、学生たちが自主的に運営しています。彼らにとりましては、出演と運営と両方を同時におこなうことになり、大きな緊張感と重い責任感を感じながらのステージになることと存じます。これも大学教育の一つとご理解いただき、あたたかい拍手とご支援をお願いいたします。

今年もまた第2部で、学生共々、「春日井市民第九演奏会」のみなさまと人類愛を讃えるベートーヴェンの第九交響曲の第4楽章「歓喜の歌」を歌うことができました。指揮者にウィーンから若いゲリット・ブリースニッツさんをお招きしました。バリトンの呉承容さんも韓国のオペラ界の重鎮です。さらに、いま各地でご活躍の福住恭子・北澤幸・松本薫平の三名のソリストのみなさまにもご出演いただきます。合唱には、大学のクラブのメンバーと教職員も加わります。今まで以上に、感動的な「第九」になるものと存じます。

中部大学の全員参加によるこの「チャリティーコンサート」の成果をより大きなものにいたすべく、みなさまの一層のご協力をお願いいたします。

プログラム

Program

第一部

中部大学青春の輝き ~Our Music~

中部大学校歌 作詞 佐藤一英 作曲 大中寅二

中部大学マンドリンクラブ

'O SOLE MIO (オ・ソレ・ミオ) イタリア・ナポリ民謡 編曲 中野 優
KEGINELLA TAMPAGNOLA (村のお嬢さん) イタリア・アブルッツォ地方民謡 編曲 中野 優
CANON (カノンとジーク ニ長調) 作曲 ヨハン・パッヘルベル 編曲 S.ダゴスト

中部大学混声合唱団

混声合唱組曲「川よ とわに美しく」より 作詞 米田 栄作 作曲 三枝 成彰
1. 釈哲道童子 2. 永遠の川 3. 荒廃に立ちて 4. 静脈の川 5. 川よ とわに美しく

中部大学ナチュラルサウンズ・ジャズ・オーケストラ

Easy Money 作曲 カウント・ベシー
Margarite 作曲 サミー・ネスティコ
Rock This Town 作曲 ブライアン・セッツァー

中部大学シンフォニックバンド

ディズニーメドレー 編曲 岩井 直博
Masquerade (仮面舞踏会) 作曲 A.ハチャトゥリアン 編曲 仲田 守

中部大学管弦楽団

ブローウェイミュージカルセレクション
コーラスライン 作曲 マーヴィン・ハムリッシュ
オペラ座の怪人 作曲 アンドリュー・ロイド＝ウェバー

第二部

歓喜の合唱 ~ベートーヴェン作曲「交響曲第九番」第4楽章~

春日井市交響楽団

春日井市民第九合唱団

指揮者 ゲリット・ブリースニッツ
ソリスト ソプラノ 福住 恭子
アルト 北澤 幸
テノール 松本 薫平
バリトン 呉 承容

みんなで歌おう、人間賛歌を

< 歓喜の歌 >

作詞 ● なかにし礼

1、あ い こ そ か ん き に み ち
び く ひ ー か り さ え ぎ る
く な ん を こ え て す す ー ま
ん か ん き の い た ー だ き
ふ み ー し め た と き わ ー れ
ら は き ょ う だ ー い せ か い は ひ ー と
つ か ん き の い た ー だ き ふ み ー
し め た と き わ ー れ ら は き ょ う
だ ー い せ か い は ひ ー と つ

1. 愛こそ歓喜にみちびく光
さえぎる苦難を越えて進まん
歓喜の頂^{いただ}き踏みしめた時
我らは兄弟世界は一つ
歓喜の頂^{いただ}き踏みしめた時
我らは兄弟世界は一つ

2. 気高^{けだか}き乙女を勝ち得たものよ
手を取り歓呼の叫びをあげよ
人間一人で何が出来よう
愛なき孤独の人は立ち去れ
人間一人で何が出来よう
愛なき孤独の人は立ち去れ